

NOW

My Ami International News



第 65 号

2019.12.17

Ami International Exchange Association

阿見町国際交流協会 広報誌

令和元年の「まい・あみ・まつり」

事務局

〒300-0392 茨城県稲敷郡阿見町中央1丁目1-1

TEL 029-888-1111 (内線292) (役場内)

FAX 029-887-9560

ホームページ <http://www.town.ami.lg.jp/aiea/>

電子メール aiea-ami@atlas.plala.or.jp

編集・発行 阿見町国際交流協会広報委員会



令和元年8月3日から4日の日程で、中国柳州市学生訪問団が来町しました。

今回来町した学生さんたちは昨年柳州市訪問の時にお世話になった柳州市実験中学校の学生さんと引率の先生方です。

訪問団の皆様は阿見町滞在2日間と短い日程でしたが、「まい・あみ・まつり」に参加し町民との交流活動を行いました。

特に、みこし体験では青宿むつみ会の皆様のご支援、ご協力を頂き大変に喜んでいました。

また、新阿見音頭では会員の皆様やアメリカスーパーア市訪問予定の中学生大使も加わって一所懸命に踊り、サプライズで大会実行委員長から優秀賞を頂くことが出来ました。賞状は記念に柳州市に持ち帰っていただきました。

短期間の滞在でしたが、訪問団の皆様と良い交流が出来、喜んで離町されたことと思います。猛暑の中参加して下さった皆様、サポートして下さい下さった皆様、ありがとうございました。

国際交流協会事務局長 湯原 清和

まい・あみ・まつりの 盆踊りに参加して 石毛 千代子

去る8月4日、阿見国際交流会のメンバーの一員として盆踊りに参加しました。6時半から約1時間、休憩を挟んで新阿見音頭を踊ったわけですが、大変楽しいひと時でした。

20年以上海外に住み、昨年末に帰国した私は、前回、まい・あみ・まつりに行ったのは、15年以上も前のことだったと思います。茨大通りで開催された時でしたから、2004年以前のことでしょうか。浦島太郎が盆踊りに来たようなものです。盆踊りも子供の時以来踊っていません。7月20日、27日の土曜日の夕方、かすみ公民館で練習がありましたが、私は、どうしても手足が皆さんと逆になったりして、うまく踊れません。

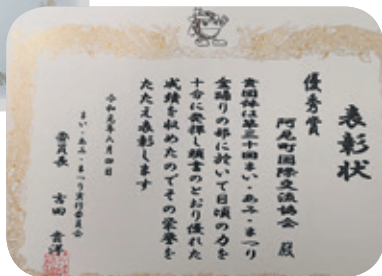
盆踊りに参加した柳州市使節団の中学生と教師の14人は、浴衣を着せてもらい、お祭りムードを満喫しているという感じです。この日の昼間、1時間ほど踊りの練習をただけだそうですが、楽しそうに上手に踊っているの、感心しました。皆、熱い踊りの熱気に酔いしれて、特に「そーれ！」と向かい合って掛け声をかけるところの一体感は、参加者の醍醐味だったのではないのでしょうか。もう、下手も上手ありません。1時間はあっという間に過ぎてしまいました。その後、表彰式があり、国際交流協会は優秀賞をいただきました。残念ながら、時間の都合上、柳州市使節団の中学生は表彰式まで残ることが出来ませんでした。が、「开心（カイシン）！」楽しかったと、皆言って帰って行きました。きっと、この盆踊りが日本での楽しい思い出の1つとなることでしょう。

さらに、多年にわたり盆踊りに参加したことで感謝状をもらいました。

また、来年も是非参加したいです。祭は、ただ見るより、参加する方が楽しいですね！



右端 司会の櫻井さん



左端 石毛さん



通訳の皆様 左から遠藤さん、大川さん、吉田さん
千葉町長、櫻井さん、小林さん

柳州市訪問団を迎えて

櫻井 はるか
春彩

柳州市からの友好親善訪問団と一緒に、中国語の通訳として「まいあみまつり」に参加しました。今回は2名の先生の引率のもと、12名の中学生が来町されました。出迎えるとき、長旅で疲れているのではないかと心配しましたが、みんな元気な笑顔であいさつしてくれたので安心しました。

歓迎式では少し緊張していた様子でしたが、みんな自分の番になると、日本に来てから覚えた日本語で自分の名前を言い、挨拶もできました。

「まい・あみ・まつり」会場の舞台でも、暑さに負けず、応援してくれた町の皆さんに手を振り、「こんにちは!」、「ありがとう!」元気な声で応えていました。

舞台の後、待ちに待った日本のお祭りを楽しんだ子供たち。屋台の「もつ煮込み」や「焼き鳥」を「おいしい〜」「日本料理が大好きだ!」と言いながら嬉しそうに食べていました。

夕方は、青宿むつみ会の皆さんのお神輿担ぎに参加させていただきました。先生方はその様子を写真に撮って校長先生に送ったところ、「とても貴重な経験ができましたね。日本の伝統文化を、身をもって体験できて何よりです」と励ましのお言葉を頂いたそうです。お神輿の4つの角にそれぞれ女の子が乗ると、800kgのお神輿は総重量1,000kgになるそうですが、今回、特別に柳州市の子どもたちがお神輿に乗せてもらいました。

翌日、盆踊りの練習をしました。先生の教え方は丁寧で、子供たちも一所懸命、真似をして踊っていました。その後、好きな柄の浴衣に着替え、髪も結ってもらい、お祭りの気分が盛り上がりました。その夜、本番では音楽にのって楽しそうに踊っていました。

日本で1年に1度の伝統行事「夏祭り」を思う存分に体験でき、柳州に帰ったら日本の良いところを伝えていきたいと、また、阿見町にきた甲斐があったと、先生たちは大いに喜んでいました。阿見町の良さを再確認することができた2日間でした。



中央 指導の福田さん

まい・あみ・まつり盆踊りを指導して

都市文化委員長 福田 守夫

私は祭りの最後を飾る盆踊り大会に柳州市の中学生達を参加させるため、即席ではありますが踊りを教える機会を得ました。最初は初めての動作ばかりで戸惑っていたところもありましたが、慣れるに従いリズムも合ってきて踊りらしくなりました。「新阿見音頭」ですからさほど難しい振り付けは無いのですが、理解し易く区切ってカウントで動作を覚えるように着意して何度も繰り返し踊らせました。最後は3列縦隊で本番に合わせて踊り練習終了です。

踊り本番、日本の浴衣に身を包み元気よく一生懸命踊ってくれて「優秀賞」を獲得しました。良き思い出になったことでしょう。

2019柳州市使節団 浴衣を着る

ホームステイ委員会

今年度はホームステイはなく、全員がホテル宿泊でした。そのため私達委員会では、例年担当している「浴衣着付」に全力投球(?)した次第です。

まず所有の浴衣を壁に並べて、好きな浴衣を選んでもらい、順番に着付けをします。その後、女性にはかわいらしく髪を結ったり、髪飾りをつけたりします。

みんな笑顔になり、男子も女子もお互いに写真を撮りあって盛り上がっていました。

毎年猛暑の中、浴衣を着てもらうのですが大人も子供も本当にうれしそうな顔をして着てくれます。着付ける私達も汗だくになりながらもその笑顔にやりがいを感じることができます。

今年も委員ではない一般の方々のお手伝いをいただき助けていただきました。感謝・感謝です。

浴衣を着て盆踊りに参加してもらいますが夕方とはいえ真夏です、体調を崩さないことだけを祈りながら、皆さんを送り出しました。



着付けのお手伝い、ありがとうございました

姉妹都市親善訪問 報告書

阿見町政策秘書課 小林 涼子

令和元年8月17日、スケジュールの都合により他の団員と1日遅れでの出発となった。

ダルス空港に到着したのは現地時間の夜10時前。遅い時間にもかかわらず、キムさんは「お腹空いていませんか」とこちらを気遣って、レストランに寄ってからホテルに連れて行ってくださった。温かい心遣いに、本当に頭が下がる思いだった。

見事なまでの時差ボケで眠れないまま2日目。最初の目的地であるエンガー・パークへ。



右から3人目が小林さん、6人目が橋本さん、10人目が三谷さん

それからスーペリア市内に戻り、歴史あるフェアローン・マンションと旧警察署兼旧消防署を視察。ここには本物の手錠が付いた牢があって、物珍しさから皆代わる代わる牢の中に入り、笑い合った。

昼食の会場は、ビザレストラン「サースティ・ペイガン」。店長さんはとても気さくな方で、少し日本語も交えながら挨拶し、併設されているビール醸造所の中も見せてくださった。

午後は新消防署を見学。消防士の方々の中には、女性の姿もあった。消防服を試着させていただく機会を得たが、とても重くて全ては装着できなかった。これを消防士の方は1分で装着するというのだから、すごいとしか言えない。

ダルスの市街地まで赴き、クルーズシップに乗船すると、「今、スーペリア市の姉妹都市である日本の阿見町から使節団が来ています！」というアナウンスが流れるサプライズ！乗船していた現地の方々も「Welcome!」と拍手で迎えてくれた。

翌日は、まず市庁舎を訪問。ショーウィンドーには阿見町からの贈り物を綺麗に展示してくださっていた。議場や市長室に案内していただき、日本の町議会との違いを沢山学ぶことができた。

そして、長年姉妹都市交流に貢献され、今春にご逝去されたジョセフ・ブラウウ氏の功績を称える記念植樹セレモニーが、ピリングス・パークにある阿見町と



阿見町からのお土産展示棚

の友好庭園にて行われた。その際は現地の地方テレビ局FOXの取材もあり、この重要な場面で通訳を務めてくださったミヤキさんと、現地で日本語を学ばれているニコルさんと、ガイドの武藤さんには大いに助けていただいて、本当に感謝している。



記念植樹する千葉町長

ウィスコンシン・ポイントと呼ばれる岬でタンカーを眺めつつ涼んだ後は、あっという間に別れパーティーの時間。中学生大使の皆さんとホストファミリーの方々が和やかに語り合う中、挨拶の際はミヤキさんのご主人が通訳をつとめてくださった。スーペリア市から阿見町への記念品として、大きな額に収められたメノウの写真とフォトブックをいただいた。食事の後は、「新阿見音頭」や「チキンダンス」などで体を動かし、会場が一つになった。

温かく見送ってくださったスーペリアの方々が見せたのは、まさに“おもてなしの心”である。

飛行機を乗り継いで辿り着いたロサンゼルスは、強い日差しにからっとした空気が特徴で、日本とは違った暑さを感じた。バスガイドのクロエさんのお話が大変面白く、ロサンゼルスのは滞事情、日本では見たことのない油を汲み取る機械、鉄骨を組まない建築——等々、豆知識を沢山教えてくださり、聞き逃すのが勿体なくて眠気が吹き飛んだ。

ロサンゼルス2日目には、吉田議長の姪で現地に暮らしている有希さんのご協力のもと、シエラマドレ消防署への視察を行い、チャイニーズシアター、ファーマーズマーケットといった名所を訪れた。

今回の訪問にご協力いただいた全ての方々に、あらためて心より感謝を申し上げたいと思う。



中央の有希さん

2019年スーペリア市訪問の思い出

橋本 英之

まず感じたことは日本の夏のような蒸し暑さがまったくなく、阿見町の秋まっただ中という感覚で、これが真夏なのかという気候の中、すがすがしい気持ちで一歩踏み出したことでした。

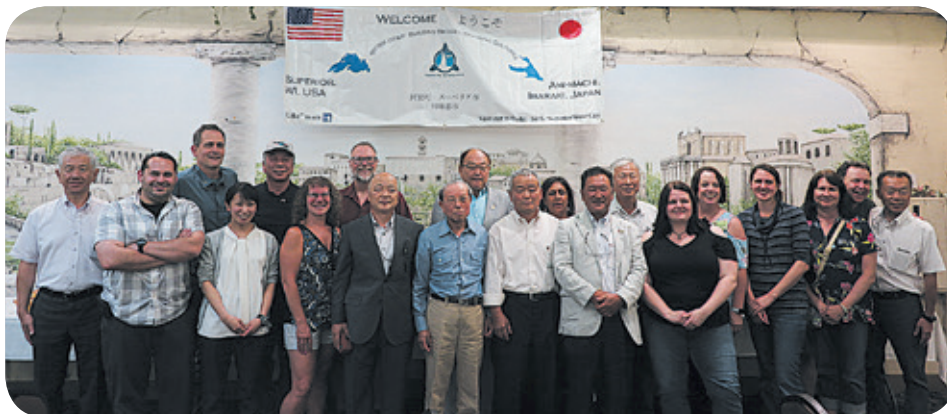
歓迎パーティーからお別れパーティーまでの熱烈歓迎振りにびっくりし、また沢山のプレゼントを頂き大変恐縮いたしました。現地のアメリカ人の素朴さ、人の良さが窺われます。そして住宅の広い庭、行き届いた管理を見るとアメリカ社会の豊かさが実感されます。パーティーでの料理の内容、町の景観、走っている車等から推測すると、アメリカ人の堅実な生活姿勢が窺われ、アメリカ社会の良き伝統が残っているなど感じました。

世界がぎくしゃくした現代だからこそ、今後ともスーペリア市との友好関係を継続することが、日米友好都市の一助にもなり、草の根の世界平和へもつながり、大切なことだった次第です。

「寒い街、暖かい心」

三谷 利光

羽田から11時間のフライトでミネアポリス国際空港へ到着し、全米の入国審査システムダウンで1時間以上待たされるというハプニングがありましたが、国内線とバスを乗り継ぎ約21時間かけて目的地のスーペリア市に到着しました。歓迎レセプション会場ではスーペリア市長をはじめホストファミリー、スーペリア市友好都市委員ら大勢の皆さんから盛大な拍手で迎えられ、訪問団一行はスーペリア市民と一緒に友好初日を過ごしました。



打ち解けた歓迎レセプション

翌日から市内視察。エンガー公園から眺めるまさしく「海」のようなスーペリアル湖の雄大さに感動し、パティンソン州立公園では滝や湖の水質が澄んだ茶色であることに驚きました。地元の方から「銅」の色素と説明されましたが鉄鉱石の全米有数の産地でもあることからその影響もあると思います。2日目は新築の消防署で最新技術搭載の消防車と充実した福利厚生施設を見学し、博物館でスーペリア市の歴史を学びました。3

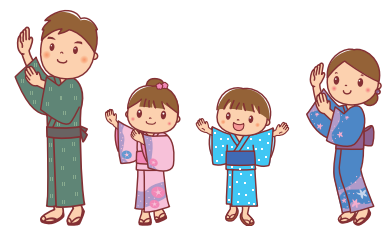


日目は、ラニ チーフ秘書官とマイク市会議員らに市長室、議会室等を案内していただき市長と議会の関係そして市民参加等々、日本と米国の違いについて意見交換をしましたが、特に議会において市民が直接議案に質問や意見を述べることができるシステムは大変興味深く感じました。



体格のいい消防士の皆さん

最後の夜は盛大なさよならパーティーが開かれ、各テーブルでは親交を深めた友人たちへ感謝を伝え再開を誓い合いました。そしてスーペリア市民の楽しいチキンダンスに私たちが参加し、広い会場を日米全員で一つの輪になって踊った新阿見音頭が最高に盛り上がりました。翌朝小雨の降る中、多くの友人たちが出発を見送りに来てくれましたが、その中でも前夜大いにはしゃいでいたホストファミリーの子供たちが別れを惜しんで涙ぐんでいる姿がとても感動的で今も忘れられません。



全員で踊った新阿見音頭

スーペリア市への訪問を通して

阿見町立竹来中学校 3年 戸ノ岡 悠

僕は以前から、アメリカという国に対してとても関心がありました。学校の授業などを通して、アメリカの文化について知り、それが広く世界で受け入れられていることを学んだからです。さらに、本場の英語を体験してみたいとも思いました。

まず、アメリカのスケールの大きさに驚きました。スーペリア市に滞在している間、何度かホストファミリーにスーパーマーケットに連れて行ってもらったのですが、日本のスーパーの何倍もの広さがあり、商品の種類もとてもたくさんありました。アメリカの文化について学んだ時に、「大量生産・大量消費」という言葉を何度も耳にしましたが、実際にそれを目の当たりにすると、想像をはるかに超えるスケールの大きさでした。ほかに、広さという点で、スーペリアル湖の大きさも想像以上でした。阿見町にも、日本で2番目に大きい霞ヶ浦がありますが、スーペリアル湖はその約370倍も広く、実際に行ってみると海と錯覚している感じでした。スーペリアル湖ではBBQをしたり、ボートに乗ったりするなどして、楽しい時間を過ごすことができました。



次に、アメリカの文化の特徴でもある様々な人種の共生についてです。街を歩いていると、様々な国の料理店や言語の表示があり、様々な人種の方がいました。日本も、これから様々な人種の方が増えてくると思うので、良い点を見習って過ごしやすい環境になるとよいと思いました。

また、実際に本場の英語を体験して感じたことは、英語を習得するのに一番良い方法は、実際に英語を母語とする方とたくさん英語で会話をするということです。滞在の最後の頃には、かなり英語が聞き取れるようになったので、ずっと英語の環境にいと耳が慣れてくると感じました。また、日本人にも早口の人やゆっくり話す人がいるように、アメリカの人でも話すスピードは様々で、特に早口の人英語は聞き取るのに苦労しました。そして学校の教科書で習う英語と比べると、スピードや表現に様々な違いがあり、やはり現地に行ってみないとわからないことがたくさんあるのだと感じました。

そのほかには、スーペリア市の方の温かさが印象に残りました。初対面の僕たちを温かく家に迎えてくださったことはもちろん、なかなか英語での会話がうまくいかない僕たちにいつも笑顔で接してくださいました。みんなが優しく接してくださったので、うまく英語を使えなくても楽しく過ごすことができました。ホストファミリーとして受け入れてくださった家族には感謝でいっぱいです。今後もこのような機会があったら、積極的に参加してみたいです。

霞ヶ浦湖岸りんりん道路サイクリングに参加して

丸山 佳博

9月28日、霞ヶ浦湖岸を走行するサイクリングに参加しました。参加者は茨城大学留学生11名、協会会員6名の総勢17名。茨大農学部から出発し、水郷運動公園、土浦Jコム・スタジアム脇のりんりんポート、そしてハス田、湖岸沿いを通して、霞ヶ浦環境科学センターまで片道15kmの行程です。

当日は好天気に恵まれ、絶好のサイクリング日より。向かい風がほとんどなく、らくらく走行でした。とはいっても、まだ夏の残暑があって、ドリンクをグイグイ飲み、二飲み、適度の休憩が必要でした。

日本に来て1週間足らずの留学生にとっては、見るもの、聞くもの、すべて興味津々だったことと思います。それに加えて、おだやかな霞ヶ浦、広がるハス田、私たちが貸し切ったようにガラガラに空いていて、開放的なりんりん道路。彼らの笑顔に私たちスタッフは元気づけられました。

ほどよい疲れと、30km走行のささやかな達成感で帰途につきました。筑波山に登りたい、牛久大仏を見たいという若者たち。短い滞在の中で思い出をたくさん作ってくれたらと願わずにいられません。



16番 丸山さん

サイクリング レポート

茨城大学留学生 Dita

私たちは茨城大学のアジア諸国留学生（AIMS）で、11人のインドネシアとタイからの留学生です。安全のための注意事項を確認して、朝9時30分に茨城大学を出発しました。

サイクリングルートは たいへん快適でした。花室川から霞ヶ浦にかけて、何人もの釣り人を見かけ、霞ヶ浦りんりんロードでは、のどかな ハス畑の景色を満喫しつつ 走行できました。途中、りんりんポート土浦で休憩を取り、その後の目的地・霞ヶ浦環境科学センター前の急な坂道は、かなりきつかったです。

霞ヶ浦環境科学センターでお昼になり、インドネシアとタイの留学生にとって、日本の食べ物を体験する、良い機会となりました。

土浦駅裏の道路は交通量が多く、走行が楽しめなかった人や、りんりんロード上で同じ景色が6~7キロ続くことに退屈を覚えた人も若干いたようですが、今回のサイクリングによって、日本の忙しさと静かさの両面を肌で感じる事ができたことは、たいへん貴重な体験となりました。



先頭 Ditaさん

さわやかフェアで国際交流協会をPR

広報委員会 吉田 美津子

10月27日に“さわやかフェア2019”が開催され、国際交流協会のPRを行いました。朝から雨が降っていましたが、幸い開催時間をすぎると雨が上がり沢山の方にブースを見ていただきました。

今年は国際農園からの出品が出来なかったのですが、テント内に写真パネルを展示し、友好都市である柳州市の特産品「草花石（別名風景石）」や最上級天然石「国画石」の紹介と販売を行いました。絵で描いたような模様を持った珍しい「国画石」は特に注目を集めました。市場価格の1/10以下という格安販売で、複数ご購入された目利きのできる方も居られました。

柳州市の「飾りや小物」のほか、上海から取り寄せた「パンダぬいぐるみアクセサリ」も完売し、スタッフの1人として楽しい時間を過ごしました。



英語で話そう！第1回English Café開催

遠藤 一昭

10月6日、日曜日の朝、茨城大学農学部国際交流会館・セミナー室で、「第1回English Café」が開催されました。9月に来日したばかりの留学生15名と一般参加者11名、町国際交流協会の英語通訳研修会から5名が参加し、5つのテーブルに分かれ、英語でコミュニケーションを楽しみました。

テーマは自己紹介、趣味や週末の過ごし方、(留学生が)日本でやりたいこと、故郷のPRですが、話の一つ一つが盛り上がり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

インドネシア、タイ、スリランカの留学生、海外で仕事をされていた方、現役の英語教師、海外留学を目指す学生など、参加者の背景が様々だったので、それぞれにとっては普通のことだが、聞き手には刺激的で、楽しいティータイムになりました。



「外国人に日本語を教えてみよう」を受講して

三上 光幸

異文化交流のきっかけになればと思い、茨城大学で「外国人に日本語を教えてみよう」という講座を受講しています。

瀬尾先生のわかりやすく双方向の授業で、受講生と意見交換しながら楽しい一時間を過ごしています。外国人に「幼い頃、自転車が欲しかったです」という日本語がなぜ正しくないのかを説明できる日本人はどれだけいるのでしょうか。日本語ができることと教えることは別問題で、日本語はなんと難しい言語だろうと痛感しています。人は言語を自然に努力せずに習得できる自然習得期間があり、それを過ぎると日本人が学校で英語を学習しているように、学習によって言語を習得しなければならないそうです。言語には生活言語と学習言語があり、日常生活に必要な生活言語は数年で習得できますが、学校の授業を理解するための学習言語の習得には7、8年が必要だと知りました。近年、外国人労働者の増加に伴い、外国籍児童が増加しています。しかし、その子どもたちは学習言語が習得されておらず、授業についていけない児童が急増しています。日常会話ができるため、周囲は学習面で問題を抱えていることに気が付きません。

今はそのような子ども達に学習する機会を与え、支援する和が広がり、日本で彼らの将来の夢や希望をつくる架け橋ができればと願っています。



右から2人目 三上さん

日本語教室による日本語スピーチ発表会 及び クリスマスパーティへのお誘い

月 日：12月22日(日)
午前10時～午後12時30分

場 所：中央公民館3階

参加費：500円

申込先：語学研修委員会 丸山宛

eメール：mrym35823@gmail.com

S M S：090-7811-4839

今後の予定

12/21 (土)	えいご はな 英語で話そう English Café 第3回	いばらきだいがくこうりゅうしつ 茨城大学交流室
12/22 (日)	にほんご すぴーち はっぴようかい 日本語スピーチ発表会 & クリスマスパーティ	ちゅうおうこうみんかん 中央公民館
1/11 (土)	えいご はな 英語で話そう English Café 第4回	いばらきだいがくこうりゅうしつ 茨城大学交流室
1/19 (日)	うおーきんぐ ウォーキング	ちやうないしせき 町内史跡
2/16 (日)	がいこく ぶんか 外国の文化に触れよう インド料理	ちゅうおうこうみんかん 中央公民館
3/8 (日)	せかい ぶんか しょうかい 世界の文化紹介 リトアニア	ちゅうおうこうみんかん 中央公民館
3/28 (土)	はなみかい 花見会	さわやかセンター
3月 未定	きかんし はっこう 機関紙NOW66発行	

編集後記：まい・あみ・まつりの写真を見て、暑かった夏を振り返りました。
過去に、冬は雪でイベント中止になったこともあり
ました。会員の皆様にはインフルエンザ対策を十分
にして、寒いと予報が出ている冬を楽しんでいただ
きたいと願っています。

【広報委員】

亀村 達男、中西 和紀、磯崎 輝也、
海野 満峯、海野 隆、小島 直子、

【広報担当委員】

佐藤 静子、吉田 美津子、福田 朋子

《新会員の紹介》

＜個人会員＞

- 1 スリダランド ニティコン(タイ)
- 2 スリダランド シリポーニ(タイ)
- 3 アンディー エンカルゲス マキーモット(フィリピン)
- 4 プリカダルシカ(スリランカ)
- 5 田中 洋(タイ)
- 6 三谷 利光
- 7 石塚 悟宏
- 8 佐藤 幸明
- 9 飯村 祐美
- 10 中村 孝一
- 11 岩崎 みか
- 12 青山 孝夫

(敬称略、順不同)

お知らせコーナー

当協会の黎明期から役員として活躍された佐藤隆博さんが、10月22日にご逝去されました。佐藤さんは、独特の柔らかでユーモアあふれる口調でその場を和ませながらも、時折ぴりりと鋭い指摘で方向性を正すという姿勢で協会運営に無くてはならない役割を担っておりました。

特に、茶道の先生としてスーペリア市や柳州市との国際文化交流に大きな貢献をされ、

かの国で教えを受けた人々からも早すぎるお別れを悼む声が届いております。ここに改めて、佐藤さんの功績に感謝するとともに、故人のご冥福をお祈りしたいと思います。



《会費納入のお願い》

令和元年度の会費をまだ納入されていない方は、国際交流協会事務局（役場2階）へ持参するか、銀行口座への振込みをお願いします。銀行口座番号が不明な方は、事務局（電話 029-888-1111 内線 292）までお問い合わせ下さい。